

競 技 注 意 事 項

本大会は、2022年度日本陸上競技連盟競技会規則ならびに、本大会申し合わせ事項によって行う。

1. 練習について

練習は係員の指示により下記によって行う。

- (1) 本競技場での練習は、大会前日は各校引率による練習のみとする。大会期間中は棒高跳びの練習を除き、全面練習禁止とする。
- (2) 補助競技場での練習はトラック競技種目と跳躍競技種目のみとし、投てき種目は投てき練習場で行う。
- (3) 雨天走路での練習は原則として禁止する。
- (4) 補助競技場のレーンの使用区分については、次の通りとする。各レーンとも、第4コーナーからホームストレートへの交点付近は危険なので特に注意すること。
 - ◎補助競技場について
 - ①周回1・2レーンは中長距離ならびに競歩関係
 - ②周回3～6レーンはリレーのバトンパスを含めた短距離。
(第4コーナーでのバトン練習は禁止とし、競技2日目からは3～4レーンのみ。)
 - ③第1曲走路からバックストレートの7レーンは女子400mH、8レーンは男子400mH。
(競技2日目は5～6レーンが女子用、7～8レーンは男子用とする。)
 - ④ホームストレート3～6レーンは短距離。(競技最終日は3～5レーン)
 - ⑤ホームストレート7～8レーンは100mH。
 - ⑥ホームストレート9～10レーンは110mH。
- (5) スターティングブロックやハードルなど練習に必要な用具は各自持参し、責任をもって片づけを行うこと。
- (6) 事故防止のため、チューブ等によるトーイング行為や逆走は禁止する。

2. シューズの制限について

- (1) スパイクの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳及びやり投は12mm以下とする。また、スパイクの本数は11本以内とする。(競技規則TR5.3、TR5.4)
- (2) 靴底の最大の厚さは、競技規則TR5.2の表に記載されたものでなければならない。

3. アスリートビブスについて

- (1) 県高体連指定のアスリートビブスを使用すること。
- (2) トラック競技出場者は腰ナンバー標識をパンツの右側やや後方につける。2000m以上の競技出場者は胸・背にも特別アスリートビブスをつける。特別アスリートビブスについては、回収しない。
- (3) 腰ナンバー標識は競技者招集所で配付する。
- (4) 混成競技の最終種目では、総合順位の順に胸部に特別アスリートビブスを使用する。特別アスリートビブスは、混成競技係より配付する。

4. 競技者招集について

- (1) 競技者招集所は第2コーナー出入り口付近に設ける。
- (2) 招集完了時刻はプログラム記載の通りである。
- (3) 招集の手順
 - ①競技者は招集完了時刻(移動開始時間)5分前までに招集所競技者待機所で待機し、最終点呼を受ける。
 - ②代理人による最終点呼は認めない。ただし、2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ「2種目同時出場申請書」を招集開始時刻前までに競技者係に提出する。
(書類は招集所で受け取る。)
 - ③招集完了時刻(移動開始時間)に遅れた競技者は当該競技種目に出場できない。
- (4) 棄権する競技者は、「欠場届」を用意してあるので、必要事項を記入して競技者係に提出する。(書類は招集所で受け取る。)

(5) 招集について

- ①トラックの予選は、プログラム記載の競技日程の招集完了時間（組により異なる）とする。準決勝と決勝は15分前完了とする。
- ②フィールド（跳躍・投てき）は、40分前完了とする。
- ③混成競技1日目・2日目とも、第1種目はプログラム記載の競技日程の招集完了時間とする。なお、第2種日以降の集合は、混成競技控室にて、トラック種目15分前、フィールド種目30分前に確認を受ける。控室は、棒高跳室内練習場に設ける。

- (6) リレー競技に出場するチームは、1組目の招集完了時刻の1時間前までに、「リレーオーダー用紙」（招集所で配布）にオーダーを記入し、招集所に提出すること。また、準決勝・決勝においてもメンバー・オーダーの変更の有無にかかわらず、リレーオーダー用紙にオーダーを記入し、予選に準じて招集完了時刻1時間前までに提出すること。

- (7) 招集の際は、選手はマスクを着用すること。

5. 競技について

- (1) 競技規則TR16.8を適用し、「TR16.7」「TR16.7.1」「TR16.7.2」により、不正スタートをした競技者は1回で失格とする。混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者は、すべて失格とする。
- (2) 跳躍競技及びやり投げの競技者は、主催者が準備したものまたは承認したマーカーを助走路の外側（走高跳では助走路内）に2カ所置くことができる。また、サークルで行う投てき競技はマーカーを1カ所だけ置くことができる。
- (3) 競技者はその競技以外は、トラックおよびフィールド内に立ち入ることはできない。
- (4) トラック競技における欠場者のレーンはそのままあけておく。（セパレートレーンのみ）
- (5) 競技場内における跳躍・投てきの練習は、審判員の指示によって行う。
- (6) 短距離走では、競技者の安全のため、フィニッシュライン到着後も自分の割り当てられたレーン（曲走路）を走る。
- (7) 計時は、写真判定装置で行い、1/100秒単位とする。
- (8) 4×100mRの第2、3、4走者は各自用意したマーカー（最大5cm×40cmの粘着テープ）を1個まで置くことができる。レース終了後は、第1、2、3走者がチームのマーカーを取り除く。
4×400mRの第2、3走者は競技役員の指示に従い、前走者が200mスタート地点（黄旗）を通過した順序で、内側から並び待機する。並んで待機している走者は、この順序を維持し、バトンを受け取るまで入れ替わることは認められない。
- (9) 三段跳の踏切板の位置は男子10m、女子8mとする。
- (10) 競歩競技については、制限時間を設定する。（男子35分以内、女子40分以内にラストの周回に入ること）

6. 競技の抽選及び番組編成について

- (1) 予選におけるトラック競技の走路順、跳躍・投てきの試技順はプログラム記載のとおりである。
- (2) トラック競技の準決勝以降の組合せ及び走路順は、主催者が公平に抽選して決定し、決定次第、招集所に掲示する。
- (3) トラック競技についてのプラスアルファの決定は1/1000秒単位とする。それでも判断できない場合は、競技規則TR21.3並びにTR21.5により、レーンに余裕があれば同成績者は次のラウンドに進むことができる。レーンに余裕がない場合は、同成績者または代理人によって抽選を行う。

7. 競技場からの退場

- (1) トラック競技の競技者はフィニッシュライン到着後、係員の指示により競技場退場口から退場する。
- (2) フィールド競技の競技者の退場については、審判員の指示に従って退場する。また、入賞者は当該審判員が表彰者控室に誘導する。

8. 競技用具について

競技に使用する用具はすべて主催者側が用意したものを使わなければならない。練習用としても、個人の用具を場内に持ち込んではいならない。ただし、棒高跳用ポールに限り、個人所有のものを使用することができる。

9. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りである。(_____ は練習)

走高跳(男)	決勝	(1.55・1.71)－1.60－1.65－1.68－1.71	以後3cmずつ
走高跳(女)	決勝	(1.25・1.46)－1.30－1.35－1.40－1.43－1.46	以後3cmずつ
棒高跳(男)	決勝	(2.70・3.80)－2.80－2.90－3.00－3.10－3.20	以後10cmずつ
棒高跳(女)	決勝	練習およびバーの上げ方については審判長判断により、10cmずつ上げる	
混成	男子	(1.37・1.70)－1.40－1.43－1.46－1.49－1.52	以後3cmずつ
	女子	(1.17・1.35)－1.20－1.23－1.26－1.29－1.32	以後3cmずつ

- (1) 走高跳・棒高跳の決勝で最後の一人になるまでは上記のバーの上げ方とする。
- (2) 上記のバーの上げ方について、天候やその他の条件によって変更する場合は当該審判長が決定する。
- (3) 順位決定のためのバーの上げ下げは走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。
- (4) 男女走高跳と男女棒高跳の公式練習については、競技者自身がいずれか一方の高さを選択して行う。男女棒高跳の公式練習は、バーかけ練習(ゴムバー)を使用する。

10. 抗議について

発表された結果に対する抗議は、競技規則TR8.2に定められている時間内(同一日に次のラウンドが行われる場合にはアナウンス後15分以内、それ以外は30分以内)に、各競技者自身または当該競技者の監督が、担当総務員を通じて審判長に対して口頭で行い、控室で裁定を聞く。さらに、この裁定に納得できない場合は預託金(1万円)を添え、担当総務員を通じてジュリーに文書で申し出る。この委託金は、抗議が受け入れられなかった場合は没収される。

11. 表彰について

- (1) 各種目第3位までの入賞者には賞状を授与する。
- (2) 入賞者の得点は1位6点、2位5点、以下4、3、2、1点とする。
- (3) 学校対抗は、男子・女子それぞれ総合第1位～第6位、トラック総合・フィールド総合・混成総合は第1位～第3位までに賞状を授与する。

12. アマチュア規定について

競技者は競技場内(練習場を含む)に商社・商標名のついた物品を持ち込むことはアマチュア規定に違反するおそれがあるので特に注意する。

13. 個人情報及び肖像権に関わる取り扱いについて

- (1) 大会プログラムに記載され、競技場内でアナウンスや掲示板等に掲載されることがあります。また、大会関係ホームページに掲載されることがあります。
- (2) 県高体連、各専門部、またはこれらに認められた報道関係などが撮影した映像・写真・記録などは、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌・インターネットなどの媒体に掲載することがあります。
- (3) 大会参加に際して提供される個人情報は、本大会活動に利用するものとして、これ以外の目的に使用することはありません。参加申込書の提出により、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして、対応させていただきます。また、大会役員、競技役員、その他の各種委員や補助員、大会関係者につきましても、上記取り扱いに関するご承諾をいただいたものとして対応させていただきます。
- (4) 競技者が安心して競技に専念できるよう、カメラ撮影禁止エリアを設ける。盗撮行為が疑われるような「迷惑行為」防止に向け、撮影者に対しては本大会役員より撮影理由を確認させていただく場合がある。

14. 第27回 東北高校新人陸上競技大会について

- (1) 期日 令和4年9月28日(水)～9月30日(金)
- (2) 会場 山形・NDソフトスタジアム
- (3) 参加資格 県新人上位入賞者、各種目4名(リレーは4チーム)が参加資格を得るものとする。ただし混成競技は3名、オープン種目は4名とする。
上記の4名のうちで出場を辞退する者がいる場合は、その次の成績をもつ者から繰り上げる。

15. その他

- (1) 救急・救護について
怪我などで応急処置を必要する時や、その他健康上の問題が生じた場合には、正面スタンド下の医務室に連絡すること。
- (2) 競技中の疾病・傷害などの応急処置は主催者側の負担とする。
- (3) 電報や遺失物については招集所に掲示し、庶務係で保管する。
- (4) 記録はその都度アナウンスで発表する。
- (5) 集団応援、及び声を出しての応援については、本大会では禁止とする。
- (6) 災害(非常時)の避難について
地震発生時(非常時)は慌てることなく、大会総務の指示に従って行動すること。